＜事業名＞　インターアクト米　稲作

団 体 名	兵庫県立豊岡総合高等学校　インターアクトクラブ
所 在 地	兵庫県豊岡市
代表者名	岩本　敏浩

事業内容	豊岡総合高校インターアクトクラブが地域の諸団体と連携し、5月～9月の間に昔ながらの農業で稲作をした。素足で圃場に入り、手植えの田植えをした。無農薬のため除草、害虫駆除、酸素・栄養補給などのためのアイガモ農法のアイガモを放鳥した。無農薬圃場の生物調査や環境整備をした。稲刈りは、非常緊急事態宣言により活動が不可能であったため、農家に依頼した。収穫されたお米は、災害被災地の東北、熊本や地域の特別支援学校、子ども食堂などに贈った。
地域	豊岡市下宮　インターアクト米圃場
事業の効果	①団体（組織）内の効果 昔ながらの農業の稲作を通じて、小学生、中高校生から大人までの異世代の交流が活発となり、参加者が活性化した。また、日本人と外国籍や外国人との異文化交流ができた。泥まみれ、汗まみれとなり用水路で足を洗い、笑顔に満ちた活動となることができた。 コロナ禍においては緊急事態宣言などあったが、田植え、アイガモ放鳥は豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にほんご豊岡あいうえおなどの団体との協働のもと行うことができた。昔ながらの魅力的な農業が実践もできたうえに、団体の枠を超えた交流もできました。稲刈りは、緊急事態宣言の最中であったため、農家による機械の稲刈りとなった。 アイガモの放鳥や生物・環境調査により、無農薬稲作の意義を感じ、普及活動の一助となることができた。 反省会ではインターアクト米やアイガモのスキ焼などを共に食することで共有することができた。コロナ禍においての会合なので他校との同席はできなかったが、同じ時間と場所が共有できて有意義な日を過ごせた。 ②地域への効果 参加者で作ったお米は、無農薬、天日干しの非常においしいお米。栄養価も高く、評判も良い。東北、熊本などの被災地の人たちや地域の特別支援学校の児童・生徒、デイサービスの利用者、各地の子ども食堂たちにとっても有益なお米となった。 気仙沼の高等学校では調理実習、石巻市の神社では新嘗祭に使っていただいた。

事業経過	2021/5/23 田植え	・豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にほんご豊岡あいうえお、豊岡総合高校インターアクトクラブ、PHD協会、但馬夢テーブル委員会、池上農園など64名参加した。コロナ禍において小中高校生の課外での活動や他者との交流の制限があったが、可能な限りの交流ができた。晴天の下、こうのとりが空を舞うなか、無事田植えができた。素足で1．4畝の田んぼに入り、一つ一つ苗を手で植える姿は非常に楽しそうであり、笑顔で活動をした。参加者はこの苗が大きくなり、稲となり、お米となった後、被災者などが美味しく食べる姿を思い浮かべた。
	2021/6/5 アイガモ放鳥	・豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にほんご豊岡あいうえお、豊岡総合高校インターアクトクラブ、池上農園など30名が参加した。コロナ禍において小中高校生の課外での活動や他社との交流の制限があるため参加ができなかった。参加者は元気なアイガモと戯れながら圃場に放鳥をした。無農薬のため除草、害虫駆除、酸素・栄養補給などのためのアイガモ農法のアイガモを放鳥

事業経過		した。ちなみに豊岡市内のアイガモ農法は2件となっていて、アイガモ米は豊岡市内でも希少価値だ。
	2021/6/5 生物調査	・豊岡総合高校インターアクトクラブ20名が参加した。インターアクト米圃場の一区画にバリケードを張り、水中生物の避難所を作成した。避難所内、避難所外、用水路に網をかけ、水中生物を確保した。コウノトリ市民研究所の指導の下どのような生物がいるかを確認した。農薬を使うと生息しない生物を多く発見することができ、無農薬圃場の稲作の有効性が確認できた。
	2021/7/17 生物調査	・豊岡総合高校インターアクトクラブ20名参加。コウノトリ郷公園のビオトープで水中生物観察をした。山裾で天然の水中生物を確認し、圃場との生物の比較をした。双方とも無農薬の環境のであり、同一生物の確認ができた。
	2021/9/18 稲刈り	・非常緊急宣言が発令され、生徒も他団体の方々も参加は見送られた。農家の機械による稲刈りを実施した。その際にも農薬の圃場の証として、コウノトリが飛来してきて、圃場に生息するカエル、バッタなどを食していた。
	2021/11/3 反省会・米発送準備	・豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にほんご豊岡あいうえお、豊岡総合高校インターアクトクラブなど約100名が参加した。コロナ禍において三密を避け、「新しい生活様式」の実践例に従い、放鳥したアイガモのスキヤキ、インターアクト米のごはんなど地産地消をコンセプトで食べながら、反省会をし、交流を図った。ご飯も薪１本でかまどメシを作った。
	2021/11/4 米発送	・災害被災地に東北（高等学校、神社、水産会社、観光協会など）、熊本の仮設住宅、子ども食堂に郵便局より発送をした。また、デイサービスや特別支援学校、地域の子ども食堂には生徒が持参し、贈呈をして、交流を図った。
	2022/1/15 但馬の環境保全を考える事例発表会	・新さわやかな環境づくり但馬地域行動計画推進協議会では、生物多様性保全や育成活動に尽力されている但馬地域の各種活動団体からの事例発表会が但馬文教府行われた。但馬は県下で最も豊かな自然環境に恵まれているが、それでも近年は絶滅が危惧される動植物が増えている。その中で、生物多様性保全や育成活動に尽力している内容を発表した。それにより、但馬の自然について考える機会にできればと考えている。
協働の相手方	・豊岡ロータリークラブ　会長：野澤勝憲(2020/7/～2021/6)、土生田尚士(2021/7/～2022/6) ・豊岡ローターアクトクラブ　会長：山本紘嗣(2020/7/～2021/6)、荒木慎太郎(2021/7/～2022/6) ・NPO法人にほんご豊岡あいうえお　理事長：植村健二	
今後の課題等	〈事業を実施する上での課題〉 ①団体（組織）の課題 豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブは年度開始が6月、終了が7月なので、行政の会計年度が合致しないため、会長、理事会など2期に渡るため組織メンバーの変更があり、連絡など困難なことがった。 協働の相手方以外で新たな団体についてどのように報告していくか、また継続性の必要性を考えるかを模索している。 今年はコロナ禍での活動であったため、時期により活動が制約された。田植えとアイガモ放鳥は、兵庫県・豊岡市教育委員会より校外での活動が禁止であったため、児童・生徒の参加ができ	

今後の課題等	なかった。しかしながら協働団体の方々の積極的な参加があり、有意義となった。説明会や報告会も開催されないのも些か消化不良の所もあったが、各種コンテストに応募し、プレゼンテーション能力も付けることができた。 ②地域の課題 ・地域は少子高齢化となり異世代間交流が希薄であるため、その交流をより深く、継続する事が必要だ。 ・外国人研修生や国際結婚などで在留・在住外国人が増加している。外国人同士だけの交流、引きこもり、自閉などの事例が見られる。米作りを通じて、異文化交流が深まればと考えている。 ・「こうのとり育む米」は減農薬の米作りで、アイガモ農法は完全無農薬だ。ブランド力や経費の面で「こうのとり育む米」に圧倒されている。アイガモ方法をもっと普及できることを考えている。 〈令和 3 年度以降の事業計画〉 ・田植え、アイガモ放鳥、生物調査、稲刈り、反省会（収穫祭）のヘビールーティンを軸として、各種発表会・コンテストなどに応募する。 ・地域の参加者の拡充を目指す。

2021 年 5 月 23 日　田植え

2021 年 7 月 17 日　生物調査

2021 年 11 月 4 日　米発送

2022 年 1 月 15 日
但馬の環境保全を考える事例発表会